

鉄道ピクトリアル

2021年8月号 Vol.71 No.8 通巻No.988

(特集)北海道の鉄道

■表紙 室蘭線普通列車と261系の特急「北斗」……………尾崎 渉
北舟岡 2021-2-28

■グラフ

北の轍 (1~8ページ)

中山博康・井上英樹・梅沢賢治・遊川 清・小野啓一
……………尾崎 渉・田中信吾・山口大助・与野正樹・金子 聡
福田静二・下嶋一浩・服部朗宏

想い出の北紀行 (116~121ページ)

三ッ谷政久・辻阪昭浩・福田静二・田中 暹
……………辻阪昭浩・伊藤保則・有原和彦・梶田俊幸
吉里浩一・赤座安彦・米山淳一・石原裕紀
三浦 衛・尾崎 渉・飯屋昭典・小林 武

*

道央の電化区間における電車と電気機関車

……………写真:水野照也・三島達夫ほか… 43

道央の今はなき探鉱鉄道・専用鉄道……………構成・解説:編集部… 48

昔日の千歳線旧線と定山溪鉄道の情景

……………構成:服部朗宏, 写真:後藤宏志・堀江光雄ほか… 56

最北の私鉄電車 旭川電気軌道……………構成:編集部… 60

*

Pictorial Color Gallery JR桂川橋梁撮影記……………山中 茂…113

〔東京地下鉄半蔵門線18000系/東武鉄道100系リバイバルカラー登場/芳賀・宇都宮LRT HU300形の車両搬入を公開/JR四国2000系2000・2200形さよなら運転/西武鉄道10000系レッドアロクラシック引退ほか〕

トピック・フォト(各地・関東・中部・関西)……………125

能勢電鉄3100系3170×4の軌跡……………構成:竹内宗隆…134

連載・昭和の鉄景(第56回)……………椎橋 俊之…137

■本文

今月の話題:北海道の鉄道……………編集部… 9

北海道の鉄道 この10年……………服部 朗宏… 10

北海道観光ブームと鉄道……………山田 亮… 32

“トレイン・スポッター”の眼で記録した北海道の鉄道 1981~2021

……………早川 淳一… 61

構内配線から見た北海道のターミナルと車両基地 今昔

……………祖田 圭介… 78

殖民軌道・簡易軌道研究覚書……………清水 一史… 90

1980年代 北海道鉄道紀行……………飯塚 卓治…102

網走駅 開業以来の歴史と浜網走駅の廃線跡を訪ねて

……………三宅 俊彦…142

*

鉄道の話……………編集部… 42

書評(677)『鉄道のドイツ史 帝国の形成からナチス時代、そして東西統一へ』

……………三木 理史…112

鉄道技術との60年⑧—工学院大学に電気鉄道講座を復活—

……………曾根 悟…138

5月のメモ帳……………152

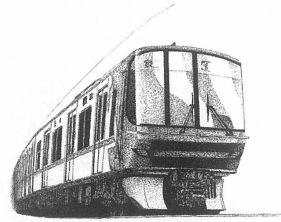
読者短信・情報ファイル……………153

後部車から……………156

ISSN0040-4047

Tetsudō pikutoriaru

今月の話題



カット:山本茂樹

北海道の鉄道

社会生活の豊かさが進んだ1960年代後半以降、団体、個人を問わず本格的な旅行ブームが到来した。近年のような海外旅行ではなく、国内の観光地などを巡る旅がもっぱらであったが、この時代、鉄道も東海道新幹線が開業し輸送サービスも大きな変革を迎え、そのブームを後押しした。日本全国に観光客が足を運び賑わったが、その代表は北の大地、北海道観光といえ、北海道ブームが到来し、雄大な風景は若者たちにとっても憧れの目的地となっていた。一方、同時にいわゆるSLブームが巻き起こり、蒸気機関車を追いかけて鉄道ファンが道内各地を行き交い、鉄道趣味も大きく広がっていった。往時の北海道は住民の重要な足となっていた国鉄ローカル線はもとより、印象的な私鉄や炭鉱鉄道などがまだ数多く稼働しており、北海道特有の簡易軌道も残存していたのである。

こうした魅力満載の北海道各地の鉄道も、蒸機が消え、道路整備が進み自動車交通が発展していく中で、輸送の役割が縮小したローカル線を含めて多くの路線が1970年代から80年代以降消えてゆき、北海道ブームという言葉もいつしか聞かれなくなった。1987(昭和62)年にはJR北海道が発足、その後青函トンネルが開通、さらに北海道新幹線開業など大きなニュースがあったが、多様な時代の流れの中で、今日では札幌など大都市周辺以外の地域鉄道輸送は存亡の危機に瀕している。しかし、北海道の大自然を行く鉄道の文化、趣味として捉えた面白味は昔も今も大きな変わりはなく、他の地方には見られない独特の魅力は健在である。かつての歴史に触れることができる施設も各所で整備されており、全盛期を知らない世代にとっても往時の鉄道の活況を偲ぶことができる。是非北海道の鉄道めぐりをお勧め致したい。

TETSUDŌTOSHO KANKŌKAI
Mehrlicht Ochanomizu Bldg., Kanda
Ogawamachi 3-8 Chiyodaku, Tokyo/Japan